

## 県内の関連遺構・遺物出土地名表

### (1) 木簡

今回の大学会館に伴う調査で、西北部にあたる落ち込みの最下部をなす黒色土層の泥土の中より、下駄などの木製品と共に下端が折損した木簡を検出した。それには墨痕は認められず、<sup>1)</sup>多時期にわたる包含層からの出土のため、時期を確定することはできないが、その形態から見て、荷札や整理のために使った付札と思われる。

わが国の木簡は中国木簡の系譜を継ぐものとされている。中国において、紙が発明される以前の記録材は竹帛や木片であった。漢代の居延漢簡を始め、敦煌、楼蘭、長沙などから発見されており、<sup>2)</sup>中国の行政実務などが具体的に表記されている。

わが国では木簡は貢進物荷札や備品などの付札や公文書・請求文書・召喚状などがある。そして、木簡は単に紙の不足を補って用いられたのではなく、奈良・平安時代の文献などからも、紙と並んで文書の起案や調整の過程に一定の役割を果たしていたとされている。また、広島県草戸千軒町遺跡でも帳簿・付札などが出土しており、<sup>3)</sup>十五世紀頃まで木簡の使用があったと言える。

木簡は正倉院の付札のほかはほとんど出土遺物である。その出土は平城宮、藤原宮、太宰府、多賀城などの都城遺跡、大阪府上田部、静岡県伊場などの地方官衙遺跡に多く見られ、このことから7～9世紀の行政実務に盛んに使用されたことが認められる。

さて、山口県内の木簡の出土地は表のとおりである。いずれも官衙より出土しており、木簡の性格から見ても、このことはうなづける。総数80弱であるが、それを形態別に分類すると次のとおりになる。型式番号は奈良国立文化財研究所の『平城宮木簡一』<sup>4)</sup>に従う。

1. 短冊形のもので、多くは方頭のままである。(6011)
2. 一端が方頭で、他端は折損・腐蝕などにより原形の不明のもの。(6019)
3. 小型で短いもの。(6021)
4. 小型で短いもので、小孔を穿ったもの。(6022)
5. 短冊形の材の一端の左右に切り込みをいれたもの。(6032)
6. 短冊形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端を尖らせたもの。(6033)
7. 短冊形の材の一端の左右に切り込みをいれ、他端は欠損のため原形の不明のもの。

今回出土した木簡はこれに相当する。(6039)

8. 短冊形の材の一端を尖らせたもの。(6051)

9. 短冊形の材の一端を尖らせ、他端は欠損のため不明のもの。(6059)

以上、9種に分類されるが、6011、6032、6051の3つの型式が基本になる。一般に、形態と墨書内容の相関関係については、文書用木簡には6011型式が、また、付札には6032型式・6051型式が使用されることが多い。

県内出土の木簡の大半は墨痕は認められず、墨痕の認められるものについても、判読することのできるものはない。出土地の性格や形態から考えて、公文書や付札などに使用されたのであろうと推測できるが、その性格を詳しく知ることはできない。

しかし、今回、学館地区で木簡が出土したことにより、この地区が何らかの官庁的性格を持っていたのではないかという推察ができる。また、それに加えて同地区から平安初期以降、官人が腰帯に用いた石製の止め具用の丸柄が出土したことからも、近くの遺構が官人の執務・生活した官庁とかかわっていたということが考えられる。今後の調査で、この地区の性格を明らかにし、周防国府との関わりを推察する意味で今回の木簡の出土は非常に意義あるものであろう。

(菅波正人\*)

(注)

- 1) 九州歴史資料館で赤外線撮影をしていただいた結果、墨痕は認められなかった。
- 2) 坪井清足「木簡学の提唱」(『考古学論考』小林行雄博士古稀記念論文集、1982年)。
- 3) 注2)に同じ。
- 4) 奈良国立文化財研究所『平城宮木簡一』(奈良国立文化財研究所史料V、1962年)。
- 5) 八木充「吉田遺跡と木簡」(『山口大学学園だより』第60号、1985年)。

Tab.23 県内出土木簡地名表

No.	遺跡名	所在地	遺跡の種類	点数	形態
1	長門国府跡	下関市長府町	官衙	2	6033、6059
2	周防鑄銭司跡	山口市大字鑄銭司字大畠	官衙	69	6019、6039、6059、6032、6051、6021
3	吉田遺跡	山口市大字吉田	集落	1	6039
4	周防国府跡	防府市国衙1丁目～5丁目	官衙	5	6039、6051、6019、6022

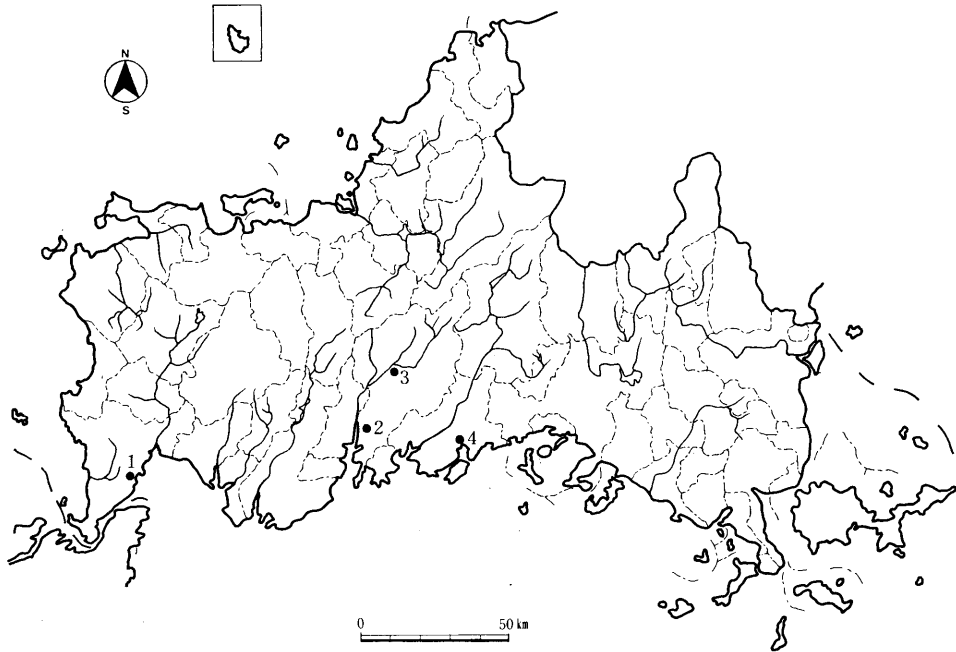


Fig.106 県内出土木簡分布図

## (2) 硯

大学会館新営に伴う調査で、陶硯の破片1点が出土した。この陶硯は、いわゆる円面硯で、<sup>1)</sup> 榑崎彰一氏の分類によれば、第一種水平硯・第一類円面硯・第一型式透脚硯・B式の範疇に入るものである。また、横田賢次郎氏による九州編年<sup>2)</sup>においては、8世紀前半から9世紀前半頃に位置づけられる。

さて、山口県において、本遺跡の出土で、8遺跡からの出土を見たことになった。以下その他の遺跡出土の陶硯について概略する。(番号は、図・表と一致する)

1. 稗尻遺跡は、須恵器窯址で円面硯1点を出土した。透脚硯であるが、透かしが、円孔5箇を用いて十字形状を呈している。
2. 秋根遺跡は、集落跡で、一説に長門国豊浦郡衙と推定されている。坏蓋(環状摘み)の内面を使用したと思われる、いわゆる転用硯1点が出土している。
3. 峠山遺跡は、窯跡で、2号窯とするものから、円面硯1点を出土している。長方形

状の透かしをもつ。<sup>3)</sup>

4. 長門深川廃寺は、古代寺院跡である。円面硯2点を出土している。いずれも長方形の透かしをもつ。

5. 木崎遺跡は、集落跡である。円面硯1点を出土している。脚部に長方形の透かしをもつ。

7. 周防国府跡は、官衙跡で、円面硯10点、転用硯2点、猿面硯1点、無脚1点の出土を見ている。円面硯の中には、わずかに堤を呈する、時期的に古い段階のものも含まれている。<sup>4)</sup>

8. 原畠遺跡は、集落跡で、円面硯1点を出土している。

以上のごとく、出土遺跡の性格は、様々であるが円面硯の割合が非常に多いようである。これらの時期は、おおよそ8世紀から9世紀代にかけてのものと推定される。<sup>5)</sup>

なお、6.吉田遺跡の性格については、木簡や石銚帯なども出土していることから、単なる集落でなかったと思われるが、詳細については今後の研究に期待される。

(高下洋一\*)

[注]

- 1) 榑崎彰一「日本古代の陶硯—とくに分類について—」(『考古学論考』、小林行雄博士古稀記念論文集、1982年)。
- 2) 横田賢次郎「福岡県内出土の硯について—分類と編年に関する一試案—」(『九州歴史資料館研究論集』9、1983年)。
- 3) 山口県教育委員会『生産遺跡分布調査報告書』(1983年)。によれば、2号窯は7世紀後半とされているが、注2)の論文の形式編年では8世紀に位置づけられよう。
- 4) 防府市教育委員会「周防国府跡・周防国分寺昭和56年度発掘調査概報」(『防府市文化財調査年報VI』、1984年)。
- 5) 注2)論文の編年による。

補稿

昭和60年度6月29日、山口考古学談話会において、岩崎仁志氏より、岩田遺跡より円面硯が出土しているとの教示を得た。

Tab.24 県内出土硯地名表

No	遺跡名	所在地	種類	文献
1	稗尻遺跡	下関市大字永田郷	円面硯	「日本の陶硯」 五島美術館 1978
2	秋根遺跡	下関市大字秋根	転用硯 (坏蓋)	「下関市 秋根遺跡」 下関市教育委員会 1977

3	峠山遺跡	大津郡日置町	円面硯	「山口県の土師器・須恵器 —集成と編年—」 周陽考古学研究所 1981
4	長門深川廃寺	長門市西深川	円面硯	「日本の陶硯」 五島美術館 1978
5	木崎遺跡	山口市大字吉敷	円面硯	「朝田墳墓群Ⅰ・木崎遺跡」 山口県教育委員会 1976
6	吉田遺跡	山口市大字吉田	円面硯	本書
7	周防国府	防府市惣社町～国衙 ～多々良～警固町～ 勝間	円面硯 転円硯 (蓋環・環) 猿面硯 無脚	「防府市文化財調査年報」 Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ 「周防の国衙」 防府市教育委員会 など
8	原島遺跡	玖珂郡周東町大字高森 字原島	円面硯	「白田・原畑・新畑遺跡」 山口県教育委員会 1974

※なお、この表を作成するにあたっては、奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター発行の『埋蔵文化財ニュース』41(1983.6.20)を参照した。

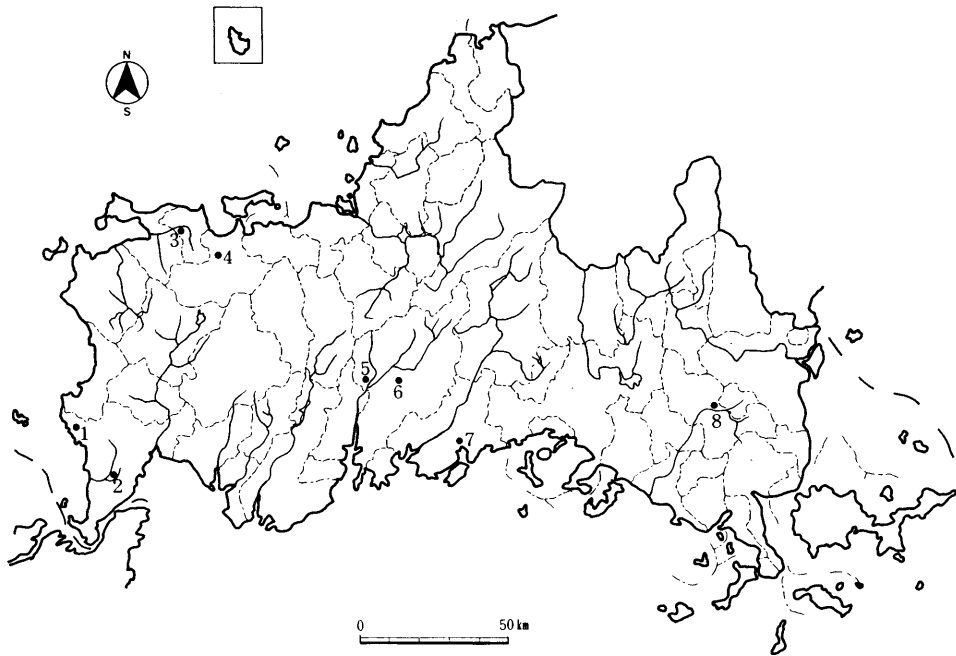


Fig.107 県内出土硯分布図

### (3) 輸入陶磁器

昭和58年度吉田遺跡MN-12区の調査において、包含層中よりややまとまった量の中国産輸入陶磁器が出土した。これらの輸入陶磁器類は、若干後出すると思われる龍泉窯系無鎬蓮弁文青磁碗（I-5・a類）片1点を含むものの、横田・森田氏編年のⅢ期1小期<sup>1)</sup>に相当する内容を示しており、12世紀中葉から13世紀前半の年代が与えられるものである。

他に本遺跡周辺で輸入陶磁器を出土する遺跡としては、堂道遺跡<sup>2)</sup>や吉田岡島遺跡<sup>3)</sup>等が挙げられる。堂道遺跡では11号土壌において南側の床面近くから白磁碗V類と土師器が出土しており、墓の副葬品として使用されたことが推定される。また吉田岡島遺跡は吉田遺跡の南側に隣接する遺跡ではあるが、出土資料中に15世紀代に下るかとも思われる雷文帯を持つ青磁碗<sup>4)</sup>を含んでおり、本調査の出土資料とは大きく時代を異にすることが注意される。

県下の分布を見てみると、考古学的調査の及ぶほとんどの地域においての出土が認められるが、特に綾羅木川・榎野川・佐波川等の河川流域に集中していることがわかる。当時の文化が河川流域を中心に繁栄していたことは言うまでもないが、この分布は、輸入陶磁器の長門・周防への搬入ルートとして海路が重視されていたことを示し、響灘・周防灘の沿岸をつたい河川を逆のぼった様子がうかがわれる。しかし同一水系においても遺跡によって出土量に多寡があり、吉田遺跡以外でまとまった出土量を持つ遺跡は、周防国府周辺、周防鑄銭司周辺、長門国府周辺、及び秋根遺跡等に限られ、これらが前代の平安期には官衙的な性格を持っていた遺跡であるということは注目に値する。また吉田遺跡では四耳壺や畿内産の瓦器も少量ながら出土しており、その年代も輸入陶磁器のそれにほぼ対応するのであるが、このような土器の組成状況も前述した諸遺跡に共通のものであることが指摘でき、非常に興味深い。

以上のような状況を考える時、吉田遺跡における輸入陶磁器のまとまった出土は、当時の吉田遺跡周辺が単なる一般的な中世村落ではなかったことを示すのに充分である。ただ今回の調査ではこれらの輸入陶磁器に伴う時期の遺構が不明瞭であり、該期の吉田遺跡周辺の状況は未だに不明である。今後の調査が期待される。

(吉田 寛\*)

(注)

- 1) 横田賢次郎・森田勉「大宰府出土の輸入陶磁器について—型式分類と編年を中心として—」(『九州歴史資料館研究論集』4、1978年)。
- 2) 山口県教育委員会『堂道・五反地遺跡』(1973年)。
- 3) 山口県教育委員会『吉田岡島・吉田大浴・下長野遺跡』第23集(1973年)。
- 4) 亀井明德「日本出土の明代青磁碗の変遷」(『古文化論攻』鏡山猛先生古稀記念、1980年)。  
なお、地名表作成にあたっては、12世紀から13世紀代(宋代前後)に製作された碗・皿を出土した遺跡に限定した。短期間で作成したため遺漏も多いかと思われるが諒とされたい。

Tab.25 県内出土輸入陶磁器地名表

No.	遺跡名	所在地	内容	文献
1	伊倉遺跡	下関市伊倉	FⅢトレⅢ2b層 青. 龍泉? 碗(底) 1点 FⅢトレⅢ2a層 白. 碗(底) 2点 FⅢトレ001-1層 白. 皿(底) 1点	下関市教委(1984) 「伊倉遺跡」Ⅱ
2	綾羅木郷遺跡	下関市大字綾羅木	VⅢ地区L.N.6048 青. 龍泉 碗I-1 (完) 1点 TⅡ地区L.N.5506 青. 龍泉 碗 (底) 1点 FX地区L.N.304 青. 龍泉 碗 (底) 1点 FX地区 青. 同安 皿 (完) 3点	下関市教委(1981) 「綾羅木郷遺跡」Ⅰ
3	秋根遺跡	下関市秋根	井戸跡 青. 龍泉 碗(口) 3点 (底) 1点 包含層 白. 碗(底) 2点 青. 龍泉 碗(底) 1点 同安 皿(底) 1点 白. 碗(完) 9点(口) 6点(底) 9点(体) 1点 皿(完) 6点(底) 7点 青. 龍泉 碗1-2 (完) 1点(口) 7点(底) 4点 碗1-4a (完) 4点(口) 5点(底) 4点 碗1-5 (完) 5点(口) 6点(底) 6点 坏Ⅲ-4-b (完) 1点 同安 碗I-1-b (完)2点(口)2点(底)7点(体)3点	山口県教委(1973) 「秋根遺跡」山口 県報告, 17.  下関市教委(1777) 「秋根遺跡」
4	綾羅木地区 糸里遺構	下関市大井綾羅木 延行・有富	包含層 5点(詳細不明・写真のみ掲載) 包含層 白. 玉線3点ほか	下関市教委(1983-84) 「綾羅木川下流域の糸 里遺構」Ⅰ・Ⅱ
5	神田遺跡	下関市神田	白. 碗(口) 1点	山口県教委(1979) 「神田遺跡第6次調 査概報」
6	塚本古墳	下関市塚本	墳丘盛土攪乱層 青. 龍泉碗1-2か	山口県教委(1973) 「塚本古墳」
7	長門国分寺	下関市長府町	国分寺地区 青. 碗(底) 1点 白. 皿1点 下安養寺地区 白. 碗(完) 5点(口) 1点(底) 5点 皿(完) 2点(口) 2点(底) 1点 青. 龍泉 碗(口) 1点(底) 1点 同安 碗(底) 1点 その他(底) 1点	下関市教委(1982) 「長門国府」Ⅴ
8	長門国府	下関市長府町	青. 龍泉 碗(完) 1-4-a 1点 1-5-b 1点 その他1点 同安 碗1-1-b 1点 皿1点 その他1点 白. 碗(完) 2点(口) 4点(底) 3点 皿2点 青. 碗 龍泉(底) 1点 同安. 碗1-1-b (底)1点 白. 碗(底) 1点	下関市教委(1978) 「長門国府」Ⅱ 下関市教委(1980) 「長門国府」Ⅳ
9	城山遺跡	豊浦郡豊浦町川棚	包含層 白. 碗(口) 1点(底) 1点	富士壱男(1984)「響灘 沿岸の高地性集落」「高 地性集落と倭国大乱」
10	甲山29号墳	豊浦郡豊浦町	玄室床部 青. 詳細不明(写真のみ掲載)	「豊浦町史」(1979)
11	深川廃寺	長門市板持	水田より採集 青. 龍泉. 碗1-4a 1点  Ⅲ地区柱穴 白. 碗(底)1点 SX301. 白. 皿(底)1点 地山面. 青. 碗1-5-b (口) 1点	山口県教委(1977) 「長門深川廃寺」  長門市教委(1985) 「長門深川廃寺Ⅱ」
12	大井・宮ノ馬場付近	萩市大井・宮ノ馬場	表面採集 青磁片6点	長谷川道隆(1977) 「大井で採集された 南宋の青磁」 「史都萩」34

13	下東遺跡	山口市大字吉敷	Ⅱ-1層(包含層)青. 龍泉 壺1-4a(完)2点 同安 壺I-1a(口)1点	山口県教委(1975) 「下東遺跡」
14	朝田墳墓群Ⅰ地区	山口市朝田	Ⅱ-1層. 白. 壺(底)1点 Ⅱ-2層白. 壺(口)1点 地山面 白. 壺(底)1点 柱穴内白. 壺(口)1点	山口県教委(1977) 「朝田墳墓群Ⅰ」 山口県報告 32
15	王子の森墳墓群	山口市朝田字王子の森	表面採集 青. 龍泉 壺(完)1-4a 1点	山口県教委(1979) 「王子の森古墳群」
16	山口大字構内吉田遺跡	山口市大字吉田	本書参照	
17	吉田大浴遺跡	山口市大字吉田	溝状遺構 青. 同安 壺(底)1点	山口県教委(1973) 「吉田大浴」
18	吉田岡島遺跡	山口市大字吉田	報告書記載不十分のため、詳細な内容、点数は未把握	山口県教委(1973) 「吉田岡島」
19	堂道遺跡	山口市大字黒川	11号土 白. 壺(完)1点 A地区包含層 青. 龍泉 壺(底)1点 同安 壺(底)1点	山口県教委(1973) 「堂道・五反地遺跡」
20	周防鑄銭司跡	山口市大字鑄銭司	包含層. 青. 龍泉 壺1-5-b 2点(口・底) 1-4-a(完)1点(底)3点(口)2点 白. 壺(底)1点	山口県教委(1978) 「周防鑄銭司跡」
21	今宿西遺跡	山口市大字鑄銭司	BP-6(掘立柱建物) 白. 皿(底)1点	山口県教委(1984) 「上辻・大歳・今宿西」
22	大歳遺跡	山口市大字鑄銭司	PH300(掘立柱建物柱穴) 青. 龍泉 壺I-5-b(完)1点 BP-1(墓) 白. 壺(底)1点 BP-2(墓) 白. 壺(完)1点 BP-4(墓) 青. 同安壺(完)1-1-b 1点 皿(完)1点 BP-5(墓) 白. 皿(完)2点 P-7. 白. 壺(底)1点 溝状遺構 白. 壺(口)1点 青. 龍泉 壺(底)1点	
23	高根遺跡	山口市大字江崎字高根	第Ⅱ地区B区包含層 青. 龍泉 壺1-5.8点 同安 皿2点 その他17点	山口県教委(1973) 「高根遺跡」
24	右田・一丁田遺跡	防府市右田・一丁田	一丁田地区小川跡 青. 壺(底)1点 右田地区B-2溝. 青. 龍泉 壺1-5-b(完)1点 壺(底)2点 皿(完)1点	山口県教委(1973) 「右田一丁田遺跡」
25	右田遺跡(右田中学校内所在遺跡)	防府市右田	包含層 白. 壺(口)1点(底)2点 青磁片	防府市教委(1979) 「防府市文化財年報」Ⅱ
26	下右田遺跡	防府市下右田	V地区B-33 白. 壺(口)1点 皿(完)1点 VIII地区P-63 青. 皿(完)1点 B-33 青. 壺1-5a(完)1点 不白. 壺(底) V地区P-137 青. 龍泉 壺1-5-b(口)1点  VI地区PH-170 青. 龍泉 壺1-4a(完)1点 V地区B-63 青. 龍泉 壺I-5-b(完)1点	山口県教委(1978) 「下右田遺跡」第1次・2次調査概報 山口県教委(1979) 「下右田遺跡」第3次調査概報 山口県教委(1980) 「下右田遺跡」第4次概報・総括
27	奥正権寺古墳	防府市大字大崎字奥正権寺	羨道部埋土中 白. 皿(完)1点 玄室内埋土下位 青. 龍泉 壺1-5-a(口)1点	山口県教委(1983) 「奥正権寺遺跡」Ⅰ
28	玉祖遺跡	防府市大字江崎字居舎	W-6(井戸) 青. 龍泉 壺1-5-b(完)1点	山口県教委(1983) 「玉祖遺跡」
29	多々良寺山9号墳	防府市国分寺町多々良寺山	石室内流入土 青. 皿(完)1点	防府市教委(1975) 「多々良寺山9号墳」



30	周防国府	防府市国衙 1～5丁目	<p>西国衙地区 白. 壺(口) 6点 皿(口) 7点 青. 龍泉. 壺 1-5b 1点 (底) 1点 国府中学敷地内 青. 皿(完) 1点 東国衙地区 白. 壺(口) 2点 (底) 1点 青. 龍泉. 壺(完) 2点 同安 壺 1-1・b (完) 1点 その他(口) 1点</p> <p>D地区 白. 壺(口) 1点 K地区 青. 龍泉壺(底) 1点 皿(口) 1点 白壺(底) 1点</p> <p>SD104.5層 白. 壺VIII-3 (完) 1点 (底) 1点 青. 皿 1点 青. 壺 J-2a (完) 1点 I-5・b (完) 1点 6層 白. 壺 V-1 (完) 1点 (底) 1点 青同安壺 I-1・b (完) 1点 皿(完) 1点 SD104.7層 白. 壺 IV-1・a (完) 1点 VI-1・b (完) 1点 V類 3点 皿(完) 2点 SD107. 青. 同安壺 II類(口) 1点 皿(口) 1点 白. 壺 V-4a (口) 1点 壺(底) 1点 皿(底) 1点 東南隅包含層 白. 壺(口) 1点(底) 2点 皿(底) 1点 GL地区柱穴・その他 白. 壺 IV類(完) 1点 HL地区柱穴・その他 白. 皿(底) 1点 SE129. 白. 壺 IV-1・a (完) 1点 V-4・b (完) 1点 壺(完) 1点(口) 1点 青. 壺(口) 1点 SK107. 白. 壺(完) 2点(口) 1点 SE128. 青. 龍泉壺 1-5b (完) 1点 同安皿 1-1・b (完) 1点 白. 壺(口) 1点(底) 1点 SX108. 白. 皿 IX-2 (完) 1点 IX-1・d (完) 1点 IX-1・b (完) 1点 その他皿(完) 2点(底) 2点 壺(完) 2点</p>	<p>防府市教委(1967) 「周防の国衙」</p> <p>防府市教委(1975) 「周防国衙-南限地域-の調査」</p> <p>防府市教委(1979) 「防府市文化財調査年報」Ⅱ</p> <p>防府市教委(1980) 「防府市文化財調査年報」Ⅲ</p> <p>防府市教委(1981) 「防府市文化財調査年報」Ⅳ</p>
31	平原経塚	徳山市戸田	集石遺構 青. 龍泉 壺 I-5・b (口) 1点	前田耕次・岩崎仁志(1984) 「徳山市平原経塚」 「山口県文化財」14
32	筏山経塚	玖珂郡玖珂町	経塚 白. 小皿 1点(合子 1点共伴) 記述のみ、 詳細不明	「玖珂町史」(1972)
33	中土井遺跡	熊毛町平生町	採集品(底) 8点 (口) 7点 詳細不明	「平生町史」(1978)
34	今井遺跡	熊毛郡平生町大字大野字今井		山口県教委(1979) 「今井遺跡」
35	岩戸遺跡	熊毛郡大和町大字岩田		大和町教委(1974) 「岩戸遺跡」

(昭和60年3月現在)

。採録にあたっては、原則的に壺・皿に限り、文献は、写真・実測図が掲載されているものを、基本とした。

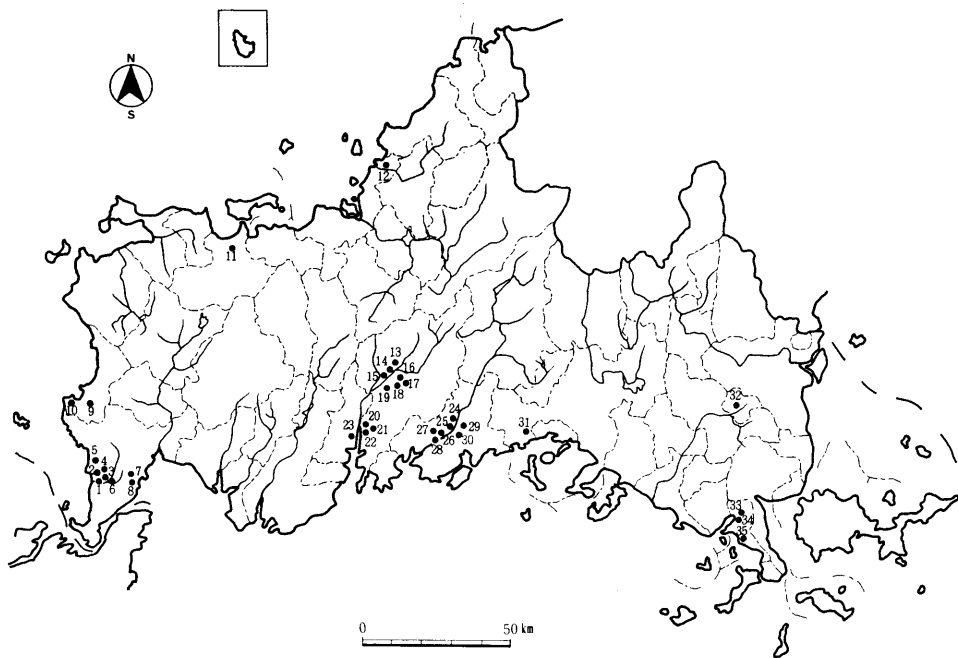


Fig.108 県内出土輸入陶磁器分布図（宋代、埴・皿）

#### (4) 緑釉陶器・瓦器

吉田遺跡の瓦器は、在産産黑色土器が内黒のもの（A類）しか確認されていないことや胎土・技法等から見て、畿内産和泉型と考えられる。なお詳細は第2章（P.52）に譲る。緑釉陶器は、須恵・土師の両質のものが存在する。従来、『延喜式』に見える「長門国瓷器」が土師質の緑釉陶器である可能性が指摘されており、緑釉の付着したトチンも長門・周防両国府域で出土してはいるが、窯跡は未だ不明である<sup>1)</sup>。また近年、近畿圏の緑釉陶器は出土例やその窯跡の発見が相次ぎ、日常雑器的な様相を帯び始めたが、長門・周防においては官衙・寺院での出土が主であり、地方性を感じさせる。生産・搬入の問題とからめて今後検討されるべき課題であろう。

（杉原和恵\*）

〔注〕

- 1) 寺島孝一「いわゆる『長門国瓷器』をめぐる二、三の私見」（『古代学叢論』、角田文衛博士古稀記念、1983年）。
- 2) 山口県教育委員会『生産遺跡分布調査報告書・窯業』（『山口県埋蔵文化財調査報告書第74集』、1983年）。
- 3) 注2）文献において、長門・周防各国庁の自給自足的な直轄窯の存在が示唆されている。しかし最近、周防国府東南部にあり、畿内産瓦器・緑釉陶器・トチン等を集中的に出土する国府津推定地の周辺には、条坊路の及んでいなかったことが調査により明らかにされてきており、独立性の強い、商品集積・流通能力を持った一団の存在する可能性も、あながち否定できまい。

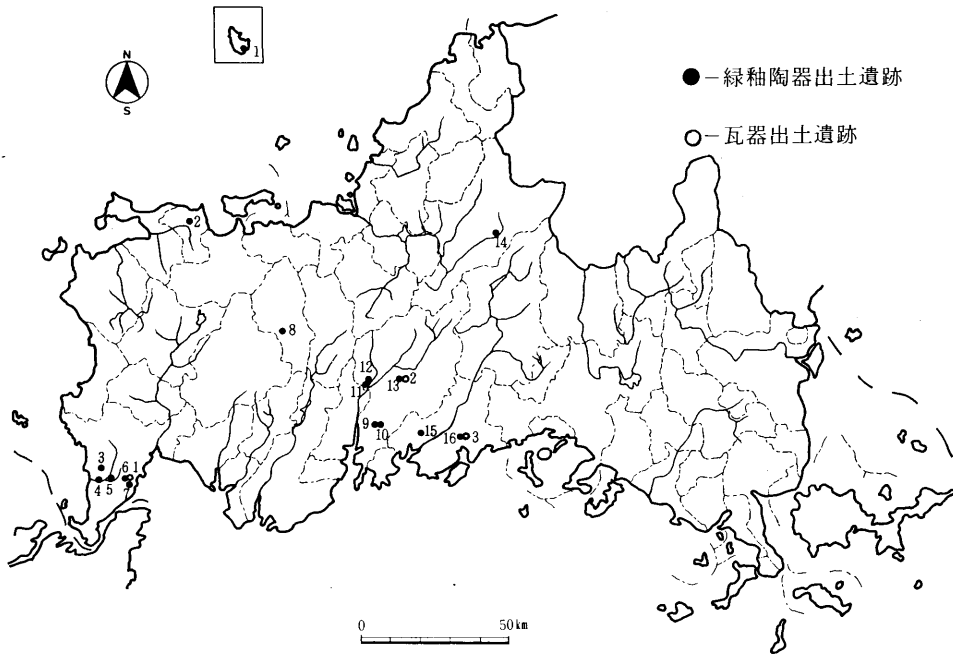


Fig.109 県内出土緑釉陶器・瓦器分布図

Tab.26 県内出土畿内産瓦器地名表

No.	遺跡名	所在地	出土した地区・数量	文献	
1	長門国分寺	下関市長府町	下安養寺地区 LW112 壺 1	「長門国分寺」長門国府 周辺遺跡発掘調査報告V 1982 下関市教育委員会	
2	吉田遺跡	山口市大字吉田	MN-12区包含層 壺 3	本書	
3	周防国府	防府市国衙	IE区 不詳	「周防国府跡昭和51年度 発掘調査概報」 防府市教育委員会	
			IG区 SD104-5層 6層 7層	皿 1 壺 1 皿 1 ? 壺 2 皿 3 壺 3	「防府市文化財調査年 報Ⅱ」 1979 防府市教育 委員会
			ID区 SD107	皿 1 ? 壺 2	
			IH区 SE129	皿 1 壺 1	「防府市文化財調査年報Ⅳ」 1981防府市教育委員会

(昭和60年6月現在)

Tab.27 県内出土緑釉陶器地名表

No.	遺跡名	所在地	胎 土		文 献
			須 恵 質	土 師 質	
1	見島ジーコンボ古墳群	秋市見島字片尻	番外15号墳 盤 1 105号墳埋土 鉢 1	番外15号墳 小鉢 1 鉢 1 盤 1 154号墳攪乱層 破片 1	「見島総合学術調査報告」 1964 山口県教育委員会
				(113号墳 墳丘外表 花瓶 1 16号墳 水注(?) 1)	
2	堀田遺跡	大津郡日置町堀田	—————	第3層 碗 2	「日置村堀田遺跡・豊浦町吉永遺跡埋蔵文化財緊急調査概報」1972 山口県教育委員会
3	神田遺跡	下関市富任町	—————	D区 細片 1	「山口県下関市神田遺跡第2次発掘調査概報」 1972年3月
				(井戸 青灰色 質土層 碗 3)	
4	綾羅木地区 糸里遺構	下関市綾羅木		(IV層 小瓶 1 碗 1)	「綾羅木川下流域の糸里遺構」団体宮川中地区圃場整備事業対象地域内糸里遺構調査概報Ⅱ 1984 下関市教育委員会
5	秋根遺跡	下関市秋根町	<1974年概報中> 碗 1 (内底花文)	左側を除き 碗多数 全て土師質 皿 少 長頸瓶 量 水注 量	「下関市 秋根遺跡」 1977 下関市教育委員会
6	長門国分寺	下関市長府町	—————	X層上位整地層 多嘴壺 1 IV1c層 碗 1	「長門国府」 長門国府周辺遺跡発掘調査報告Ⅳ 1980 下関市教育委員会
			IV層 高台付皿 1	<下安養寺地区> LD125E 高台付皿 1 LK115 広口壺 1 V11層直上 高台付皿 1 (LD125E 小瓶 1)	
7	長門国府	下関市長府町	—————	B地点LD004 皿 6 碗 1	「長門国府」 長門国府 周辺遺跡調査報告Ⅲ 1978 下関市教育委員会
				(地点無記載 碗 1)	
8	三戸遺跡	美祢郡秋芳町大字岩永本郷字三戸		(三戸山南側裾部水田側溝 環 1)	「三戸遺跡」 1981 秋芳町教育委員会
9	周防鑄銭司	山口市大字四辻字大島	<第1次調査> 第6トレンチ溝中 碗 3	<第1次調査> 第6トレンチ溝中 口縁片 4 底片 1 細片 5	「周防鑄銭司跡」 1978 山口市教育委員会
			<予備調査> I10b1土坯中 皿 1 G12トレンチ床土層 碗 1 G11n3床土上 碗 1 H10n1包含層 碗 2	<予備調査> G12je14遺構面上 皿 1 H10a13包含層 皿 1 碗 1 I10p13柱穴中 碗 1 F12o1井戸埋土中 碗 1 I10e13柱穴中 碗 1	
10	下北田遺跡	山口市大字四辻字大島	—————	柱穴中 皿 1 碗 1	「周防鑄銭司跡」所収 附編 下北田・上北田遺跡 1978. 山口市教育委員会

11	朝田墳墓群	山口市大字朝田字高井		(IV地区表採 細片1)	岩崎仁志氏御教示による
12	木崎遺跡	山口市吉敷木崎		(IV地区柱穴 細片1)	「朝田墳墓群I・木崎遺跡」1976 建設省山口工事事務所 山口県教育委員会
13	吉田遺跡	山口市大字吉田	MN-12区包含層 皿 2 壺 1	MN-12区包含層 壺 2	本書
14	突抜遺跡	阿武郡阿東町大字 地福上		(III地区 PH-25 壺 1 DW-23 壺 1 表採 壺 1)	「よみがえる弥生のムラ - 突抜・馬場遺跡 -」 山口県教育委員会 1985
15	玉祖遺跡	防府市大字大崎字 居合		(第1地区B-1-PH9 細片1)	「玉祖遺跡・西小路遺跡」 1983 山口県教育委員会 建設省山口工事事務所
16	周防国府	防府市国衙	<西国衙> 皿・壺 12	<西国衙> 皿・壺 5 蓋(香爐?) 1	「周防の国衙」1967 防府市教育委員会
			<東国衙> 皿 2	<東国衙> 皿 1	
				(<D区> 細片1 <I区> 壺 1 <K区> 皿 1)	「周防国衙 - 南限地域 - の調査」 1975 防府市教育委員会
				<IE区> (環・皿数量不明)	「周防国府跡昭和51年度 発掘調査概報」 防府市教育委員会
				<東南隅> 地点不明 底部1 ( 細片2)	「防府市文化財調査年報 II」
			<53年度> ID区SD105 皿 2	<53年度> IG区SD104-5層壺数個体分 ID区SD105 壺 1 SD106 壺 2 SK106 壺 1	1979 防府市教育委員会
				<第22次調査> (HC区SK112 壺 1)	「防府市文化財調査年報 IV」
				<第23次調査> IH区SK117 壺 1	1981 防府市教育委員会
	<第26次調査> 1F区 (SK123 耳環1) 褐色砂質土包含層 壺2 褐色砂質土包含層 壺2 地点不明 壺1 壺1 細片1	「防府市文化財調査年報 VI」 1984 防府市教育委員会			
	<第28次調査> GF区第1トレンチ 壺1				

(昭和60年6月現在)

- 器形や胎土は報告書の記述に従った。
- 胎土の須恵質・土師質の区別が報告書でなされていない場合は( )でくくって便宜的に土師質の欄に記載した。

## (5) 竈付堅穴式住居跡

県内における造り付けの竈を付設した堅穴式住居跡は、推定されるものを含めて9遺跡34基におよぶ。時期は、古墳時代後半期が大半であるが、前半期のものとしては今回調査した白石遺跡（第8章参照）の他に山口大学吉田構内に存在する吉田遺跡にも一基（Tab.28. No.2）ある。吉田例は北壁中央部に半円形状の切り込みをもち、その内部面に焼土痕が集積していたことから竈の存在が推定されているものであるが、しかし、それには粘土帯や板石など天井部の構築を示すものが全く認められず、いわゆる定形化された竈とは考え難い。また同じ吉田遺跡の検出住居跡の中に古墳時代前期に比定されるもので、住居の中心部に炉とさらに東南壁中央に炊事用の炉と推定される炭化物・焼土痕を充填した掘り込みを付設しているものがあり、上記の例もこれに類する炉から竈への移行する過渡期のもので炉の機能分離に伴うものと思われる。なお、下松市宮原遺跡では弥生時代終末に比定される円形プランの住居内に竈様構造のものがあるとされるが、設置位置等から竈としては断定し難いもので、炉の可能性が高いと思われる。したがって、現時点では白石例のものが一部ながら粘土帯を確認しており、出土土器から5世紀前半期、より遡って4世紀末であることから、県内での定形化した竈の最古例に位置づけられよう。全国的傾向をみると、その出現は西谷正氏によると弥生時代後期に造り付け竈の概念が朝鮮半島から伝播したことによるとされ、北部九州においては古墳時代前期初頭、少なくとも4世紀には出現している。それ以降各地に伝播し、漸次増加していくものの、一般化するのには古墳時代後期・6世紀以降になる。この点からすれば、山口県下では白石遺跡や下右田遺跡・綾羅木郷遺跡など中期までに属するものが存在することから、比較的早い段階で造り付け竈が普及したことが看取される。

竈の設置位置は、Tab.28に示した通り、圧倒的に北壁中央部に多く、北壁から西壁に集中することが指摘でき、この点、福岡県でも同様の傾向が認められ、計画的に設置されたことが伺える。その理由としては日照と風方向の二つの条件が大きく左右したと考える。

（森 田）

〔注〕

- 1) 小野忠親・中野一人「山口」（『三世紀の考古学』下巻、1983年）。
- 2) 山口県教育委員会『宮原遺跡・上広石遺跡』（1973年）。
- 3) 西谷正「加耶地域と北部九州」（『大宰府古文化論集』上巻、1983年）。
- 4) 北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室『葛原(A)・(B)遺跡』（1984年）。

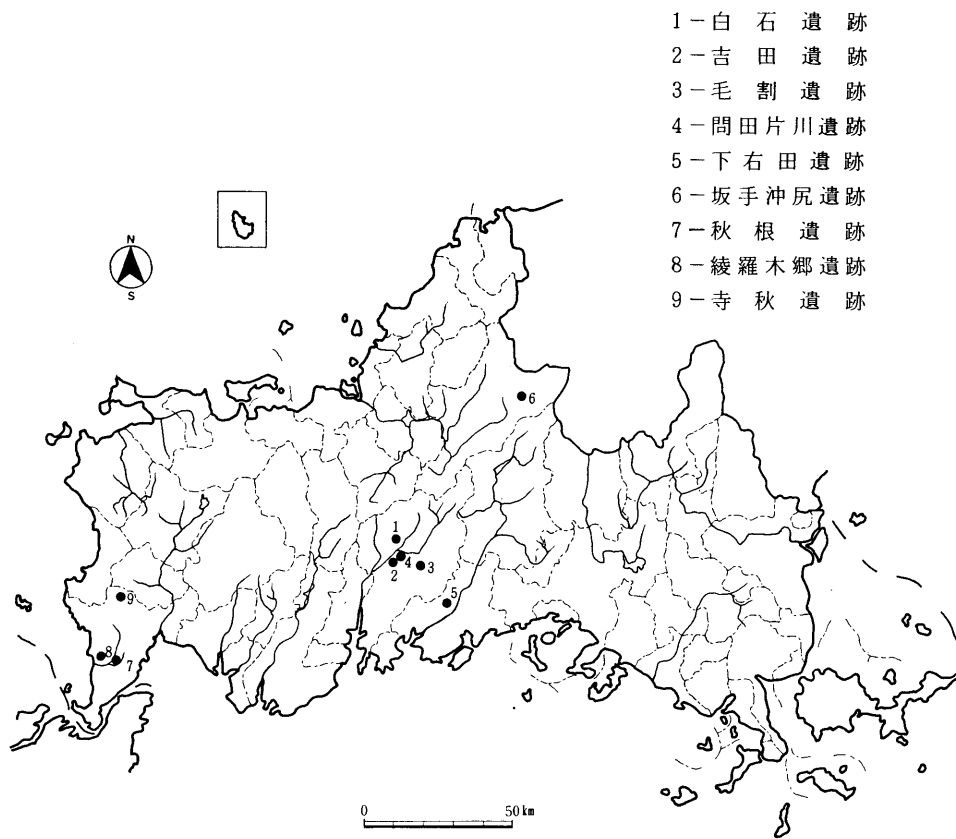
Tab.28 県内竈付壑穴式住居跡

No	遺跡名	所在地	住居跡名	竈位置	遺存度	出土遺物	時期	文献
1	白石	山口市	S B - 1	北壁	○	H	4世紀末～5世紀前半	
2	吉田	山口市	P, D, II	北西壁中央部	△	H Q M	古墳時代初期	1
3	毛割	山口市	1号住居跡	西壁北寄り	○	H S Q	7世紀前半	2
4			2号住居跡	西壁中央部	○	H S	7世紀前半	2
5			3号住居跡	北壁中央部	○	H S Q	7世紀前半	2
6			4号住居跡	北壁	○	H S Q	7世紀前半	2
7			5号住居跡	西壁中央部	○	H S M	7世紀前半	2
8			6号住居跡	北壁	○	H S	7世紀前半	2
9			7号住居跡	北壁	○	H S Q	7世紀前半	2
10			8号住居跡	北壁中央部	△	H	7世紀前半	2
11			9号住居跡	北壁中央部	○	H S	7世紀前半	2
12			10号住居跡	北壁中央部	○	H S E	7世紀前半	2
13			11号住居跡	北壁中央部	○	H S M	7世紀前半	2
14			12号住居跡	西壁	△	H S E	7世紀前半	2
15			13号住居跡	北壁	○	H S Q	7世紀前半	2
16			14号住居跡	北壁	△	H S Q	7世紀前半	2
17			15号住居跡	北壁	△	H S E	7世紀前半	2
18			16号住居跡	北壁	○	H S	7世紀前半	2
19	問田片川	山口市	10号住居跡	北壁	○	S	6世紀末～7世紀	3
20	下右田	防府市	D W - 2	北壁中央	△	H S Q	5世紀後半	4
21			D W - 3	東南壁・東壁	○	H	5世紀後半	4
22	坂手沖尻	阿東町	3号住居跡	北壁中央部	△	H	古墳時代後期	5
23			4号住居跡	北壁中央部	△	H	古墳時代後期	5
24	秋根	下関市	1号住居跡	北壁中央部	△	H S Q	6世紀後半	6
25			2号住居跡	北壁中央部	○	H S	6世紀後半	6
26			3号住居跡	北壁中央部	△	H Q	6世紀後半	6
27			4号住居跡	北壁中央部	○	H S P	6世紀後半	6
28			6号住居跡	北壁中央部	△	H Q	6世紀後半	6
29			7号住居跡	北壁	△	H S	6世紀後半	6
30			L S 0 0 4	南壁中央部	△	H	6世紀後半	7
31	綾羅木郷	下関市	住居跡1号	北西壁中央	△	H S Q M	5世紀末	8
32			住居跡3号	北壁中央	○	H S	5世紀末	8
33			住居跡4号	北壁中央	○	H S	5世紀末	8
34	寺秋	下関市	1号住居跡	東壁?	△	H	古墳時代	9

※遺存度 ○-粘土壁が残存するもの . △焼土痕等から竈の存在が推定されるもの

※出土遺物 H土師器・S須恵器・Q石製品・鉄器・鉄魂M

P土製品・E耳環



- 1-白石遺跡
- 2-吉田遺跡
- 3-毛割遺跡
- 4-問田片川遺跡
- 5-下右田遺跡
- 6-坂手沖尻遺跡
- 7-秋根遺跡
- 8-綾羅木郷遺跡
- 9-寺秋遺跡

Fig.110 県内竈付竪穴式住居跡検出遺跡分布図

文 献

- 1) 山口大学文化会考古学部 『吉田遺跡・第1地区E地区発掘調査概報』(1971年)。  
山口大学吉田遺跡調査団 『吉田遺跡発掘調査概報』(1976年)。
- 2) 山口市教育委員会 『毛割遺跡』(1983年)。
- 3) 山口市教育委員会 『問田片川遺跡』(1985年)。
- 4) 山口県教育委員会 『下右田遺跡』第3次(1979年)。
- 5) 山口県教育委員会 『坂手沖尻遺跡・惣の尻遺跡』(1978年)。
- 6) 山口県教育委員会 『塚本古墳・秋根遺跡・石原遺跡』(1973年)。
- 7) 下関市教育委員会 『秋根遺跡』(1977年)。
- 8) 下関市教育委員会 『綾羅木郷遺跡』(1981年)。
- 9) 山口県教育委員会 『寺秋遺跡・湯免遺跡』(1979年)。